

用語集

●アクティブ・ファンド

特定の指数に連動するように運用されるパッシブ・ファンドに対し、運用担当者が、投資方針に基づき、株式、債券等の銘柄および投資割合を判断して運用される投資信託等のこと

●インパクト・インベストメント

経済的な利益を生むだけでなく、貧困や環境問題などの社会的な課題に対して解決を図る用途に限定して資産を運用する投資の方法

●カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト (CDP)

気候変動に関心を持つ機関投資家が連携し、グローバル企業に対して環境問題への姿勢や取組みに関する情報開示を要求するプロジェクト

●カラーユニバーサルデザイン

多様な色覚を持つ人々を念頭に、より多くの人に情報が伝達できるように、色使い等に配慮したデザイン

●クラスター爆弾

容器となる大型の弾体の中に多数の子弾を搭載した爆弾。一回の攻撃で多数の爆発が広範囲に発生し、損害が拡大する。また、多数の不発子弾の処理が困難であるとも指摘されている

●グリーン調達

生産者の観点で、環境負荷ができるだけ小さいものを優先して購入すること

●国連グローバル・コンパクト (GC)

コフィー・アナン国連事務総長(当時)の提唱により、国連に創設された世界的イニシアティブ。人権・労働・環境・腐敗防止分野における10原則を支持し、実践するイニシアティブ

●国連ミレニアム開発目標 (MDGs)

国連ミレニアム・サミットで採択された「国連ミレニアム宣言」をもとにまとめられた8つの目標

●コーポレート・ガバナンス

企業統治。効率的かつ健全な企業経営を可能にする仕組み

●コンプライアンス

法令遵守

●持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則 (21世紀金融行動原則)

環境に配慮した投融资等の拡大を目指し、金融機関の自主的な取組みとして策定

●ステークホルダー

利害関係者

●責任投資原則 (PRI)

UNEP FI と国連グローバル・コンパクトが策定した6つの原則で、機関投資家に対し投資の意思決定プロセスにESGの視点を考慮するよう示したイニシアティブ

●低炭素社会 (Low Carbon Society)

二酸化炭素の排出が少ない社会

●バリューチェーン

価値連鎖。原料調達から消費者に届けるまでの企業活動の全プロセスを一連の価値の連鎖として捉える考え方

●マイクロファイナンス

貧困者を対象とした小規模金融サービスの総称

●リサイクル

再生利用

●ワーク・ライフ・バランス

仕事と生活の調和

●BOP(ベース・オブ・ザ・ピラミッド) ビジネス

多くの国で最貧困層は、貧富差おける人口ピラミッド下部の大きな部分を占めるが、未開拓の市場であり大きな市場になる可能性があることに着目し、持続可能な商品・サービスの提供により、社会的課題の解決と、人々の生活の質の向上を目指すビジネス

●CSR (Corporate Social Responsibility)

企業の社会的責任

●ESG (Environment/Social/Governance)

環境・社会・ガバナンス

●GRI (Global Reporting Initiative)

持続可能性報告に関する世界共通のガイドラインの立案、普及を目的にする団体

●HEMS/BEMS

ITを活用した電力やガス等のエネルギーマネジメントシステム (Energy Management System)。BEMS (Building-) はビル用、HEMS (Home-) は家庭用を指す

●IFFIm (International Finance Facility for Immunisation)

予防接種のための国際金融ファシリティ

●ISO26000

ISO (国際標準化機構)により発行された国際規格「Guidance on social responsibility (社会的責任に関する手引き)」

●IR

投資家向け広報

●NISA (少額投資非課税制度)

株式や投資信託などから得られた配当や譲渡益は、通常所得税や地方税の課税対象となるが、毎年100万円を上限とする新規購入分を対象に、その配当や譲渡益を最長5年間、非課税にする制度

●NPO/NGO (Non Profit Organization/Non Governmental Organization)

非営利団体/非政府組織

●SRI (Socially Responsible Investment)

社会的責任投資

●TSR (Telephone Service Representative)

欧米で一般的に使われている専門知識を備えたオペレーターの呼び名